

2017年度政策・制度要求と提言 大澤知事に意見提起

8月23日、大澤知事に対し、「2017年度 政策・制度要求と提言」の提出を行いました。

産別・地協をはじめ県民のご協力をいただき、11,577名の方々からの回答を得た「県民意識調査」を踏まえ、7分野13項目18提言に取りまとめました。

今年の政策要求は、連合本部が提唱する「働くことを軸とする安心社会」ならびに連合群馬が目指すべき姿として示している「すべての県民が安心して暮らせる地域社会の実現」を踏まえ、県民意識調査でも関心が高い、「自分や家族の老後」「健康・医療」など、先行き不安の払拭につなげるべく『平均寿命と健康寿命の差異を圧縮させるための健康増進』『各世代における活躍の場の創出』を重点にまとめました。

政策フォーラムを開催

7月30日、群馬会館において、政策フォーラムを開催し、知事に提出する「2017年度 政策・制度要求と提言」の取りまとめに向け、一般県民2名を含む182名の参加のもと、意見集約の場と位置付け取り組みました。

第1部では、2016年県民意識調査の集計結果をもとにした「政策要求(素案)」の説明を行い、意見集約など補強意見を受けました。

第2部では、日本大学法学部岩井教授を講師に招き「地方分権と自治体の政策形成」と題した講演会を行いました。

岩井教授からは、「現政権は、地方分権は考えておらず、一億総活躍や地方創生と言っているが、中身は中央集権が強化される動きになっている。民進党が政策能力を高め、民進党単独で自民党に対抗できるようにすることが必要」との提起がありました。

政策提言に対して、参加者から「国を挙げて少子化の対策に向けた抜本的な取り組みが必要」「選挙における投票所の投票時間や期日前投票所の開設期間の統一化」の2点の補強意見・要望があり、今後の取り組みにつなげることを共有しました。



大澤知事は「毎年、多くの県民意識を踏まえた貴重な提言をいただき感謝します。早急に対応できるものは9月議会の中で具体化をはかりたい。先日、全国の幸福度ランキングが発表され、尾瀬を抱える新潟・福島・群馬がワースト3となり、群馬県は47位となったようです。群馬は東京に近いので、都会と比べる傾向が強いせいであると思います。高齢化や人口減少に向けては、雇用の場と介護労働者の処遇改善が重要であると考えており、全国知事会として国に要望書を提出したところであります。高崎のコンベンションホールは、民間における利活用など、ご協力をいただきたい」とのコメントがありました。

提言項目

- I. 雇用労働
 - 生産年齢人口の減少に伴う対策の強化
 - 非正規労働者の雇用安定や処遇改善の強化
- II. 中小企業
 - 中小企業の活性化に向けた支援強化
- III. 福祉・社会保障
 - 健康寿命を意識したデータヘルスの取り組み確立
 - 利用者の状態像に応じた介護サービスの安定供給と介護人材の処遇改善
 - 高齢者の活躍の場の創出促進
- IV. 財政
 - 行政改革大綱の着実な実行と検証
 - 多様な主体との連携強化による産業と雇用創出の一体的推進
- V. 教育
 - 労働教育・社会教育の推進
 - 主権者教育の推進
- VI. 男女平等・女性活躍推進
 - 男女平等の視点に立った社会制度・慣行の見直し
 - 女性活躍推進の早期実現
- VII. 防災・減災
 - 災害時における減災対策の強化

地域の労働環境共有 地協・労働基準監督署との意見交換会

「地域で働く仲間たちのサポート体制の強化」に向けて、地協役員と労働相談を受けている組織アドバイザーが参加し、8月から9月にかけて県内すべての労働基準監督署（前橋・高崎・桐生・太田・沼田・藤岡・中之条）との意見交換会を開催しました。

はじめに、連合群馬の労働相談の状況を説明した後、労基署から転倒災害や熱中症予防対策、外国人に関連する諸問題など、地域産業の特徴を踏まえた各署における労働災害の現状や、その対策としてどのような取り組みが行われているかなどの説明を受け、地域ごとの労働環境を共有しました。また、県内で労働災害が増加している現状に対し、安全衛生週間などを利用した各署長によるパトロールを全署に要請しました。



参加者からは活発な意見

メンタルヘルスセミナー 安心ルーティーンを身に付けよう！

職場の中からメンタル不調者を出さない、また組合役員としてどのように対応すべきかを学ぶ場として、8月27日に42名が参加しメンタルヘルスセミナーを開催しました。

セミナーは「安心ルーティーンを身に付けよう」と題し、ライフサポートぐんまのカウンセラーである、ラポール企画の大小原利信氏を講師に招き、緊張感を解きほぐすところからスタートしました。そして、参加者でペアになり、一生懸命話を聴いてもらえる状況や話を無視される状況を体験した後、話の聴き方の大切さや、話を聞いてもらえない人がどのような心理状況になるかを体験し合いました。



そして、普段から職場の仲間に気を配り、いつもと違う様子の時は声を掛ける。話を聴くときは、その人の言葉と気持ちを聴くようにするなど、味方になりきるコミュニケーションの取り方を学ぶとともに、日頃からのコミュニケーションがいかに重要かということを経験しました。また参加者からは「普段意識をして聴いているつもりでも、やってはいけないことをしてしまっている」など、気づきの場にも繋がりました。



衆議院議員 宮崎タケシのマジメひとすじ

NO.7

今年の夏は、参院選、都知事選、納涼祭回り、お盆のあいさつ回りと息つく暇もない忙しさの中、あっという間に過ぎ去りました。さすがに少々疲労がたまっていますが、秋の臨時国会に向けて気合いを入れ直します！

参院選で私たちは、群馬選挙区に民進党公認の野党統一候補、堀越けいにん氏を擁立しました。連合群馬「支持」決定のもと、組合員の皆さんには多大なるご協力をいただき、ありがとうございました。

結果は25万票弱で、ダブルスコアの大敗。総合選対委員長として責任を痛感しています。しかし、前回3年前に比べると野党候補はプラス3万3千票、自民党候補はマイナス5万3千票。敗北とはいえ退潮に歯止めをかけ、再生への足がかりができました。

9月に召集される秋の臨時国会では「労働法制」が最大のテーマとなります。安倍総理は唐突に「働き方改革」と言い出し、担当大臣を置き、「長時間労働を是正し、同

一労働同一賃金を実現し、非正規という言葉がこの国から一掃する」と大見得を切りました。

しかし、安倍総理こそが労働者派遣法の改悪などで労働条件を悪化させ続けてきた張本人です。予定されている法案も、「残業代ゼロ法案」「解雇の金銭解決」など、労働者の権利を制限するものばかり。バラ色のキャッチフレーズに惑わされず、働く人たちの権利を守るため体を張って頑張ります！

9月には党員・サポーターの皆さんにも参加してもらい、民進党として初の代表選を行います。だれが当選するかは分かりませんが、民進党の「新しい顔」であり「総理候補」ともなる新しい代表に、ぜひご期待ください！



8/9産別地協代表者会議で挨拶

核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現を目指して…

連合平和派遣団 in 広島・長崎

連合群馬では、8月5～7日に12名が広島を、8～10日には9名が長崎を訪問し、連合平和集会および原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加しました。今日になってもまだ核兵器は世界中に1万5,700発も存在すると言われるなか、私たちは原爆被害の悲惨さを風化させることなく後世にも継承し、二度と核兵器が使用されることのない世界を作ることの大切さを、現地を訪問することで改めて実感しました。

連合平和行動に参加して…

◎広島派遣団

U A センセン 日清紡労組

新田 規さん

オバマ大統領訪問の話題性もあり、例年以上に来場者が多い状況に国内外の関心の高さを感じました。

平和記念公園や被ばく状況の解説と資料で見る惨状から想像以上の負のエネルギーを感じました。

最も印象深かったのは、お二人の被ばく体験者の講話でした。被ばく者本人から語られる、痛ましく、つらい、生々しい体験談と想いは、強く激しく身につまされました。

被ばく体験者は、何れも高齢となった時代、数年もすれば本当の体験談をご本人から聞くことはできなくなり、人伝ではない本物の話が聞けたことは、今しかない貴重な機会だったと思いました。

多くの人に「早く見て聞いて来い」と言いたいです。



電力総連 東電労組

高橋 広樹さん、聖彩ちゃん（5年生）

私ははじめて広島に行き、原子爆弾がおとされた場所を見学しました。

テレビや本などでしか見たことのない、原爆ドームをみたとき原子爆弾の怖さをほんとうに感じました。そこでたくさんの人の命が一瞬でうばわれたと聞きとても悲しくなりました。

平和公園ではたくさん歩き、慰霊碑に込められている思いをガイドの方に説明していただきました。平和記念資料館で溶けて曲がってしまった鉄や瓶を見て驚きました。ガイドの方や語り部のリーさんが言ったことが写真や人形であつたのでよくわかりました。

この平和行動で二度と原子爆弾がつかわれないように願いました。こういった思いが世界中に広がればきっと平和な世界がくるのだと思いました。

◎長崎派遣団

電機連合 パナソニック・アプライアンス労組

江口 徹志さん



原爆資料館で見た、一瞬にして街が焼き尽くされ7万4千人以上の命を奪った原子爆弾、それはあまりにも悲惨な写真であり、このような悲劇を忘れない、二度と原爆を使用してはならないと強く感じました。

私たちが住んでいる日本は平和ですが平和の継続、またこの世から戦争、核兵器がなくなることを望みます。集会では被爆者体験の語りを聞き、我々も連合群馬平和行動を通じ、まずは組合員一人ひとりにこのような出来事を伝え、これから日本の将来を支える若い世代、子供たちにも継承していくことが私たちの使命だと思います。

JAM GSユアサ労組

関口 慎二さん

今回、連合群馬平和行動の長崎派遣団の一員として平和集会やピースウォークなどに参加させて頂きました。平和集会ではナガサキユース代表団や高校生平和大使などの若い世代の多さが印象的でした。被爆経験者の高齢化によって直接経験談を聴く機会は減ると思いますが、しかし後世にしっかりと受け継ぐという強い気持ちを感じました。ピースウォークではガイドの方からの貴重な話を聞きながら原爆の破壊力、恐ろしさを改めて感じる事が出来ました。今回の平和行動参加を通じ、一人でも多くの方にこの出来事を語り継いでいくことが大切だと感じました。



ららん藤岡で平和パネル展を開催

より多くの方に戦争の悲惨さを伝え、平和への意識を高めてもらえるよう、道の駅ららん藤岡で8月11～14日に平和パネル展を開催しました。

今年は、住民を巻き込んだ戦いとなった沖縄、原爆で焼け野原となった広島・長崎、現在も不法に占領されている北方領土の現在の姿などのパネルを掲示したほか、各地の語り部から戦争体験を語ったDVDの上

◆9/9～13には県庁で

映を行いました。夏休み中ということもあって、多くの方に来場していただきました。特に子どもを連れた家族も多く、不思議そうな顔でパネルを見る子どもたちに戦争について話をする姿も見られました。



平和を願い親子で鶴を折る

ユニオンガール'S TALK No.5

しみず まゆみ
清水 麻友美さん

連合群馬女性委員会 幹事
澤藤電機労働組合 代議員



組合には活躍のチャンスがたくさんある！

はじめまして、ユニオンガール'S TALKへようこそ

ー組合活動はどうですか？

現在、組合の代議員を務めて2年になります。職場から1名が代議員として選出され、声が掛かった時は快く引き受けました。

代議員として組合員への周知や年数回のイベント運営に携わりますが、司会などステージに立つこともあります。

はじめは、人前に立つのは抵抗がありましたが「頑張っていたね。」と声をかけられ、顔も覚えてもらえるのはありがたいです。なんと言っても、イベントとして何か一つのことをみんなで作り上げていく達成感は言葉には言い表せないですね。

ー女性活躍推進をどう思いますか？

関ブロ女性代表者会議に参加した時に年代も業種もバラバラなのに皆さん共通して口にしていたのが、自分の自動車業界は特にそうかもしれませんが、まずは女性が少ないということ。

そのような職場では、女性管理職の登用は少なく、業務もアシスタント的な内容が多いということから、前例がない部分はなかなか変わりにくいという認識は同じでした。性別による「差別」とはいかないまでも「区別」はまだまだ広く残っており、女性の活躍は、女性個々の問題もあるけれど、まずは社会の根深い考えを変えないとかなあとも思います。

ー女性委員会の活動は？

先日、女性委員会を代表して太田東高校の「公開みら

い学」へ講師として参加しました。グループディスカッションでは生徒と話をして、会社の紹介や仕事の内容、現在の職業を選ぶに至った経緯、学生時代にしていたことで働くときに役立ったことなどを話しました。皆さん、進路について漠然としている段階のようでしたが、熱心に耳を傾けてくれました。ゲームでも服でも自分の好きなものにヒントがあるという話や、機械や家電だけではなく、食品やアパレルなど、たくさん業種があることを伝えました。職業選択の視野が広がったらいかな…と。そして、自分自身の仕事を見直すきっかけにもなりました。

ー今後の抱負は

代議員は40名程いますが、そのうち女性2名です。私もこの1年は代議員の議長として、月1回の会議進行や提案もさせてもらい、女性委員会の活動報告やイベントの周知など委員会のPRもさせてもらっています。

代議員になると、何かを伝えることも多く、文章にまとめて提案したり、発言したり、とても貴重な経験ができます。

そして、組合員はもちろん、上司や組合役員、先輩方などいろんな方に認めてもらえるチャンスがあります。イベントの司会でもそうですが、自分が担うことで、女性が「誰でもできる」「やってみよう」と思われるように、少しでも興味をもってもらえるように活動を進めていきたいですね。

ー最近の清水さんの様子を聞かせてください

会社では調達部に所属しており、部品選定や価格交渉など国内外の仕入先と取引をしています。

実は今年5月に結婚したこともあり、仕事や組合活動を特にメリハリをつけて進めています。

共働きということもあり、結婚当初から家事は分担し、結婚前と変わらず仕事や組合活動を続けられています。夫が色々協力してくれるのは本当にありがたいです。最初が肝心ですからね。(笑)



講師として生徒と
ディスカッション

Listener 吉田 香苗



「安心して働きたい・暮らしたい」
【未組織労働者の格差の声を組織拡大に】

私が連合群馬の組織アドバイザーに着任して早くも一年を経過致しました。この一年の活動の中で、相談を通して感じることは「組織のない職場と組織のある職場」の労働環境格差です。

群馬県内2015年6月の労働組合推定組織率は16.6%(全国17.4%)ですから、見方を変えれば80%以上の未組織労働者の声がそこにあるということです。電話や連合群馬に直接労働相談に来られる方は組織がないがゆえ労働相談の拠りどころとして「なんでも労働相談」に声を掛けて来られるわけです。

しかし、相談に来られる(ドアを叩く)相談者はほんの一部の方々です。自分たちの労働環境・労働条件を、何とか労働組合を作って改善向上させたいと思いを馳せる有志は、県内のいろんな業種で、いろんな職場・会社にも多くおられることは間違いありません。相談内容は、個人的な労働相談と職場や会社(事業所)全体の労働条件に関係する労働相談に大別されます。後者の、全体に関係する労働相談については、組織化に結び付けることが可能なかどうか、相談の受け側として相談者の心証を計りながら、組織化・組合結成が可能であればもちろん組合作りへのアプローチに入っていきます。

「1000万連合」実現に向けた連合群馬の2020年(東京オリンピック開催年)、目標組織人員は12万5千人です。その目標に向け連合群馬としての組織拡大・組織強化の運動は未組織労働者(非正規労働者を含む)の、組合つくりへの隠れた思いを、草の根でとらえることが大事なのではと考えます。

地域・産別(業種)の枠を超えた情報提供を頂き、アンテナを高くし、未組織労働者の格差の声を組織拡大に結び付けていかなければなりません。

政府では今、雇用形態による賃金格差をなくそうと、同一労働同一賃金政策が議論されようとしています。

そのことも大事ですが、小欄のタイトルでもありますが、総合的な意味での「安心して働ける・暮らせる」ために未組織の、より多くの働く仲間の組織化を進めていかなければなりません。

(野口)